

文化服装学院 学校関係者評価委員会 報告書

文化服装学院 自己点検・評価委員会

平成 28 年 9 月 20 日

目 次

1. 報告書骨子	2
2. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価 に対する総評	3
3. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価 の重点評価項目への提言	
1) キャリア教育、キャリア支援、進路・就職状況	3
2) 学生募集広報	5
3) 留学生の受け入れ	5
4. 学校関係者評価を受けて	6
学校関係者評価委員会開催日程	7

1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、文化服装学院学校関係者評価委員会規程に基づき、平成 25 年 4 月 1 日に設置した。文化服装学院（以下、本学院）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。

当委員会は、本学院の自己点検・評価を基に、自己点検・評価委員会の内部評価を参考に、関係教職員との具体的な意見交換を通して、本学院の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。

当委員会委員は外部委員のみで構成され、本学院の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から学院長が選考し、委嘱している。委嘱された委員は下記のとおりである。

平成 28 年度は、平成 27 年度の本学院の取り組みに対し、当委員会としての評価・助言をいただいた。本報告書はその評価・助言をまとめ作成したものである。本報告書に記載した評価・助言は、具体的な事項であり、より本学院の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々には、お忙しいところご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げる。

記

委員長	徳岡敬也（株式会社トークス 代表取締役）
副委員長	芦川照和（SUN デザイン研究所 プロデューサー ・ 本学院卒業生）
委員	山内 誠（一般財団法人日本ファッション協会 企画事業部 部長）
委員	中村善春（株式会社織研新聞社 事業局局次長 JFW-IFF/PLUG IN 事務局長 アッシュ編集室長）
委員	磯貝章弘（株式会社東京ソワール 常勤監査役）
委員	百々和宏（株式会社サンエー・ビーディー 取締役経営管理部長）

以上

2. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価に対する総評

本年度の自己点検・評価ではこれまでに挙げた問題点、課題を精査し、その改善に向け取り組んでいる現状がうかがえる。

一方で文化服装学院としての取り組みのみならず、文化学園という法人としての横断的な取り組みにより改善に努めるべき問題点も見えてきていると感じる。

グローバル化、人工知能（AI）などの新基軸が生まれ、産業界全体が変化してきている。その社会構造の変化の中において日本のファッションの独自性、文化服装学院の独自性を踏まえ、学校の方向性を大所高所から見直していく時期ではないだろうか。

今後の取り組みにおいては具体的な施策、何時までに、誰が、どのようにするべきかを明確にしていかなければならない。

専門学校と産業界は密接なつながりがある。ファッション産業を目指す学生が減少することは、学校運営のみならず、将来的には産業界へも大きく影響してくる。キャリア支援のみならず学生募集においても、産業界と学校が一体となり将来を担う人材の開拓に取り組むことも検討できるのではないだろうか。

3. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価の重点評価項目への提言

平成 27 年度自己点検・評価において本学院が重点項目として掲げている 3 項目について委員からの提言は以下の通りである。

1) キャリア教育、キャリア支援、進路・就職状況

[本学院の現状]

職業教育への評価が見直される昨今、専門学校はその中心となる教育機関である。実社会で活用できる実践的な知識と技術を身につけさせ、社会的、職業的自立に向け一人でも多くの学生を就職という形で送りだしていくことが専門学校の使命である。それゆえ、就職率向上のため弛まぬ改善と努力が必要と捉えている。

キャリア教育、キャリア支援、進路・就職支援は密接に関連しており、具体的かつ横断的な取り組みが必要である。就職率については若干上昇してきているが、継続的に改善に取り組むべき課題であるため本年度も本学院の重要課題の一つとしている。

[学校関係者評価委員からの提言]

- (1) 将来の進路について学生は「目先のイメージ」にとらわれがちである。実際には様々な段階的なストーリーがあることを説明し、想像力を刺激することが大切と考える。
- (2) 専門職は、先ずは専門技能ありきである。就職においても、専門技能が最大の武器であり、学生に技能と自信を持たせる教育が肝要だ。文化服装学院の教育内容は、その実績において自信を持ってよい。
- (3) 専門職の採用選考においても必要なものは、質問の意図を理解する能力と日本語の表現力である。
- (4) 問題解決能力や創意工夫など、自ら考えて行動する力を身につけることができる教育が求められる。
- (5) キャリア教育においては有能な非常勤講師を確保し、連携を図る必要がある。
- (6) 大学とは異なる専門学校ならではの実践的なキャリア教育プログラムの構築を期待する。
- (7) 教育機関ならではの視点に実業界における職業的自立の視点を加えるためにも、企業などとの意見交換の機会を設けることは有効な手段だ。
- (8) 企業訪問は大いに歓迎する。その際は採用担当との懇談だけではなく、専門職社員と話をすると良い。教員はマネージャークラスの者との情報交換が有益だ。
- (9) 学生と教員の企業訪問など実践的なOJT型支援を取り入れるのもよいのではなか。
- (10) 卒業生の把握を通じて企業ネットワークの構築も役立つ。
- (11) 就職に関しては大手企業には低迷、新興企業には疑わしさという問題があるため、情報収集の徹底が必要である。
- (12) 就職率はどの様に算出された数字なのかが分からない。また学生は希望する職種に就くことができているのか疑問がある。短期間での離職者が多い現状、卒業時のみの就職率を持って就職状況を判断してよいのだろうか。
- (13) 就職率が年々向上してきており、成果が上がっていることから、適切な対応がとられていると考える。
- (14) 留学生が増加する中、国内における就職を可能にするための働きかけ（関係官庁含む）が必要になってきていると考える。

2) 学生募集広報の検討

[本学院の現状]

学生確保は学校経営に直結する重要な課題である。

募集活動は年間を通じて様々なイベントの実施及び多様な媒体を通じた広報活動を行っている。

ウェブ広告の手法を一部変更したところ、成果がみられたものの、引き続き媒体並びに手法の検討が必要であると認識している。

留学生確保のため、海外で実施されるガイダンスへも積極的に参加を試みている。

[学校関係者評価委員からの提言]

- (1) 学生の人数と質の問題は常に両輪での検討が必要な問題である。
- (2) 既存手段の充実・改善を図る一方で、情報環境の変化を先取りするような募集、PRの工夫が求められる。
- (3) 安易な留学生頼みの学生数確保は問題を先送りにしている様な気がする。計画的に管理、留学生の質の向上等に努めなければ、日本人学生が離れていくことになる。
- (4) 高校生以外へのアプローチはぜひ前進させるとともに、アプローチ方法を再検討する必要がある。
- (5) 大学とは異なる実践教育が実社会で役に立つことを発信していくためにも、企業との関係者と連携した広報活動も検討してみる価値がある。
- (6) 各種専門学校の学生募集が厳しい環境にあると聞く中においては、善戦していると思う。

3) 留学生の受け入れ

[本学院の現状]

留学生の数は600名を超え、全学生数の2割におよぶ。その内、半数が中国人留学生であり、その人数には中国との提携校から入学してくる学生も多数含んでいる。

日本語能力が不足している学生が多いことから中国人及び中国語が話せる教職員を配置し学生サポートを行っている。

今後増加が予想される留学生の受け入れについての本格的な取り組みは始まったばかりである。継続して整備していくべき課題が多数ある。

[学校関係者評価委員からの提言]

- (1) 抜本的な問題はあるとは思いますが、留学生抜きの学校運営は現実としては考えられない。ただし、各国により異なる様々なスタンダードの理解なしには成果は望めない。
- (2) 世界レベルで高い評価を得ている本学院では、今後も益々、国際交流、留学生の受け入れが進むことと期待している。
- (3) 増加を続ける留学生への受け入れ態勢は、これからの問題でもあり、継続して整備していく課題である。
- (4) 一層の交流の発展が学校全体の進化・発展につながる。本格的な取り組みを望む。

4. 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価委員会の委員各位には、ご多忙の中委員をお引き受けくださり心より感謝申し上げます。外部の方々から学校運営ならびに教育活動に関し具体的な評価を頂戴することは今回で四度目となります。

今回もファッション業界における製造部門、人事部門、メディア部門、プロデュース部門等の皆様から多岐にわたり、幅広い視野での提言を頂戴することができ、改めて外部評価の重要性を痛感しております。また、日ごろの文化服装学院の教育活動に対し、賛同と高い評価をいただき大変ありがたく存じます。

平成 27 年度文化服装学院自己点検・評価における重点項目は一部昨年度とは変更し、多角的な影響をおよぼしている留学生の受け入れ問題を取り上げました。

本学院はグローバル化を掲げ多くの留学生に門戸を開いています。その推進のためには我々は日本文化への理解を求めるばかりではなく、他国の考えを受け入れることも重要です。受け入れ態勢としてはハード、ソフト共に改善に努め、留学生と日本人学生及び学校が歩み寄り、環境の整備に努めていく事が課題であると捉えております。

冒頭の委員からの総評にあったように、グローバル化、東京オリンピック、人口知能(AI)と新たな基軸が生まれています。その渦中で、変わるべきものと普遍的であるべきものを見極め、これらの課題に対し委員の皆様方から頂戴した提言を真摯に受け止め、恒常的に検討し、時代、業界のニーズに応える人材の輩出につなげてまいりたいと存じます。

また文化服装学院では創立 100 周年を見据え、永続的に教育活動を行っていくための様々な分野における再構築を進めております。今回頂戴したご意見はそちらにも生かさせていただく所存です。

今後とも自己点検・評価ならびに学校関係者評価を継続し取り組んでまいりますので、

皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご尽力いただきました委員各位には改めて深く感謝申し上げます。

学校関係者評価委員会開催日程

第一回

平成 28 年 7 月 27 日（水）15：30～16：30

文化服装学院 C 館 4 階 C041 会議室

出席者（敬称略・順不同）

委員：徳岡敬也、芦川照和、山内誠、中村善春、磯貝章弘、百々和宏

オブザーバー：相原幸子、野中慶子、辛島敦子、平野栄子、宮原勝一、
山田とし子、渡井邦重、尾花京子、山口容子、小林克也、
宇都宮愛、横倉孝、須藤久栄、石崎克典、吉野真文、
浜田法子、古澤直子

配布資料：平成 27 年度文化服装学院自己点検・評価

文化服装学院 自己点検・評価 内部評価報告書

学校関係者評価委員名簿

平成 27 年度学校案内書／学科一覧

第二回

平成 28 年 9 月 20 日（火）17：00～19：00

文化服装学院 C 館 4 階 C041 会議室

出席者（敬称略・順不同）

委員：徳岡敬也、芦川照和、山内誠、中村善春、磯貝章弘、百々和宏

オブザーバー：相原幸子、野中慶子、辛島敦子、平野栄子、宮原勝一、
山田とし子、渡井邦重、尾花京子、山口容子、小林克也、
宇都宮愛、横倉孝、須藤久栄、石崎克典、吉野真文、
浜田法子、古澤直子

配布資料：文化服装学院 自己点検・評価

内部評価報告書及び学校関係者評価委員による評価報告書